

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 松竹系 8月 演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『新版歌祭文 野崎村』	○	○		
	『春興鏡獅子』		○		
	『梅雨小袖昔八丈 髪結新三』	○	○	○	○
	『色彩間苺豆 かさね』	○	○		
	『江戸みやげ狐狸狐狸ばなし』	○	○		
	『棒しばり』	○	○		
新橋演舞場	『さくら橋』	○	○	○	○
三越劇場(日本橋)	『三婆』			○	
南座(京都)	『OSKミュージカル Love Traveler』			○	○
	『レビューアドベンチャー ネクステージ』				
松竹座(大阪)	『ANOTHER』			○	
大阪新歌舞伎座	『新・水滸伝』	○		○	

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

■ 映画プログラム ■

- | | | |
|------------------------------------------------|-------------------|---------------|
| 『最愛の大地』 | 『ホワイトハウス・ダウン』 | 『スマイル、アゲイン』 |
| 『宇宙戦艦ヤマト2199 第七章 そして艦は行く』 | | 『マン・オブ・スティール』 |
| 『劇場版タイムスクープハンター 安土城 最後の1日』 | | 『オン・ザ・ロード』 |
| 『スマーフ2 アイドル救出大作戦!』 | | 『少年H』 |
| 『ガッチャマン』 | 『映画 謎解きはディナーのあとで』 | 『ワールド・ウォーZ』 |
| 『スター・トレック イントゥ・ダークネス』 | | 『トゥ・ザ・ワンダー』 |
| 『風立ちぬ』 | 『31年目の夫婦げんか』 | |
| 『劇場版ポケットモンスター ベストウイッシュ 神速(しんそく)のゲノセクト ミュウツー覚醒』 | | |

■ 他社演劇公演資料 ■

あうるすぽっと	7月	子供のためのシェイクスピアカンパニー『ジュリアス・シーザー』プログラム、台本
青山円形劇場	8月	『プレゼント5 side : 三日月』プログラム
赤坂RED/THEATER	7月	カタルシツ『地下室の手記』プログラム
紀伊國屋ホール	7月	扉座『アトムへの伝言』プログラム
劇場MOMO	7月	日本の演劇人を育てるプロジェクト『虚人の世界』プログラム、台本 め組のよぎんち『タイムカプセル 過去と未来の交差点』プログラム
国立劇場小劇場	7月	『邦楽へのいざない 親子で楽しむ日本の音』プログラム 『邦楽へのいざない 名曲で知る邦楽の世界』プログラム
国立文楽劇場	8月	『傘寿記念坂東竹三郎の会』プログラム
笹塚ファクトリー	7月	トム・プロジェクトプロデュース『百枚めの写真』プログラム 日本の演劇人を育てるプロジェクト『プラモラル』プログラム、台本
ザ・スズナリ	7月	おにぎり第3回公演『トークトワミー!』プログラム
シアタークリエ	7月	『宝塚BOYS』プログラム 『MY ROMANTIC HISTORY』プログラム
シアターコクーン	7月	『盲導犬』プログラム
	8月	『市川海老蔵第一回自主公演ABKAI』プログラム、台本
シアタートラム	7月	『戯曲リーディング、時代を築いた作家たち(1) アルベール・カミュ』プログラム
渋谷区文化総合センター大和田伝承ホール	8月	伝承ホール寺子屋『渋谷金丸丸伝説 I I』プログラム
テアトルエコー	7月	テアトルエコー『うちに来るって本気ですか?』プログラム、台本
東京芸術劇場シアターウエスト	7月	新宿梁山泊『道玄哀歌』『百年 風の仲間たち』プログラム、台本
日生劇場	8月	『日生劇場国際ファミリーフェスティバル2013 親子で楽しむ歌舞伎』プログラム
博多座	8月	『レ・ミゼラブル』プログラム、ポスター
博品館劇場	7月	『Super "D-★" Cruising Show DIAMOND DOGS SPECIAL VENETIAN RED』プログラム 『第27回夏休みこども舞踊フェスティバル』プログラム
パルコ劇場	7月	『非常の人何ぞ非常に 奇譚平賀源内と杉田玄白』プログラム
本多劇場	8月	オフィス300『音楽劇 赤い壁の家』プログラム
三越劇場(日本橋)	7月	『アガサ・クリスティー サスペンスオムニバス』プログラム 劇団東少『ミュージカルアルプスの少女ハイジ』ヨプログラム
明治座	8月	『源平盛衰記』異聞 巴御前 女武者伝説』プログラム

■ 演劇雑誌 ■

『伝統文化新聞』2013年(87号)	『日本芸術文化振興会ニュース』平成25年9月号
『演劇界』2013年10月号	『日本照明家協会誌』2013年8月号
『悲劇喜劇』2013年9月号	『日本舞踊』65巻9月号
『邦楽の友』平成25年9月号	『大向う』平成25年9月号
『ほうおう』2013年9月号, 10月号	『ラ・アルプ』2013年9月号
『ジ・アトレ』2011年7月, 2013年4月, 6月	『SePT倶楽部 information』 2011年7月号, 2013年3月号, 6月号
『ジョイン』2013 Jul. No. 78	『シアターガイド』2013年10月号
『上方芸能』2013年9月(189号)	『テアトロ』2013年9月号
『神奈川芸術プレス』2013年8月-9月 Vol. 113	『トリコロール新聞』博多号
『神戸女子大学古典芸能研究センター紀要』7号	

(新規登録資料案内 続き)

■ 映画雑誌 ■

『ドラマ』2013年9月号
『映画テレビ技術』2013年9月号
『映画撮影』2013 Aug No. 198
『映画秘宝』2013年9月号, 10月号
『衛星劇場プログラムガイド』2013年9月号
『エキブ・ド・シネマ』2014年No. 195
『FLIX』2013年10月号No. 219
『キネマ旬報』2013年8月下旬号, 9月上旬号
『ムービー・スター』2013年10月号
『NFCニューズレター』2013年8月-9月号
『日経エンタテインメント!』2013年9月号
『ピクトアップ』2013年10月号
『SCREEN』2013年10月号
『シナリオ』2013年10月号
『シナリオ教室』2013年9月号
『特ラ連レポート』平成25年8月特別号

■ 書籍 ■

『中国映画の熱狂的黄金期』 劉文兵 (著) 岩波書店
『森田芳光祭 全員集合! モリタ監督トリビュート』 ぴあ
『COFFEE SHOP 2 長塚圭史対談集』 長塚圭史 (著) キネマ旬報社
『桜咲く国で OSKレビューの90年 OSK日本歌劇団90周年誌』 OSK日本歌劇団
『THEATRE YEAR-BOOK 2013』 国際演劇協会日本センター
『歌舞伎 江戸の芝居小屋 歌舞伎座新開場記念展』 サントリー美術館
『演劇年鑑 2013』 日本演劇協会 (編) 日本演劇協会
『イギリス映画と文化政策』 河島伸子+大谷伴子+大田信良 (編) 慶應義塾大学出版会
『映画・ドラマ・CMイチオシ男優スター名鑑』 アクチュール編集部 (編) キネマ旬報社
『軍記物語とその劇化 『平家物語』から『太閤記』まで』 国文学研究資料館 (編) 臨川書店
『建築家、走る』 隈研吾 (著) 新潮社
『デュレンマット戯曲集 第1巻』 フリードリヒ・デュレンマット (著) 鳥影社+ロゴス企画
『僕は、亀治郎でした。祝! 四代目市川猿之助襲名記念』 市川猿之助 - 4世 (著) 集英社
『水の手紙 群読のために』 井上ひさし (著) 平凡社
『『レ・ミゼラブル』をつくった男たち』 マーガレット・ヴァーメット (著) 三元社
『ロバート・アルドリッチ大全』 アラン・シルヴァー+ジェイムズ・ウルシーニ (著) 国書刊行会
『岩波ホールと<映画の仲間>』 高野悦子 (著) 岩波書店
『小津も絹代も寅さんも 城戸四郎のキネマの天地』 升本喜年 (著) 新潮社
『ことばの創りかた 現代演劇ひろい文』 別役実 (著) 論創社
『世界の子もたちに夢を タツノコプロ創始者 天才・吉田竜夫の軌跡』 但馬オサム (著) メディアミックス
『不戦病状録抄 津上忠作品選集 続・のべつ幕なし』 津上忠 (著) 本の泉社
『近松浄瑠璃の史的研究 作者近松の軌跡』 井上勝志 (著) 和泉書院
『守屋多々志の世界』 大垣市教育委員会
『昭和演劇大全集』 渡辺保+高泉淳子 (著) 平凡社
『野田秀樹 新しい地図を携えて』 河出書房新社
『ボックスオフィス報告書 2010年ロンドン劇場協会』 日本演劇興行協会
『鏡花と能楽』 金沢大学人間社会研究域
『幕末・明治の寫眞師 内田九一 内田写真株式会社135周年記念』 内田写真
『若獅子 the 25th anniversary』 劇団若獅子

≫≫ ご寄贈いただきました

2013年7月8日

野澤松三郎師御遺品オープンテープより作成したCD16枚（2セット）及びCD目録を、竹本協会（竹本谷太夫様）を介して、竹本弥乃太夫様よりご寄贈いただきました。

歌舞伎の竹本太夫として舞台上で活躍された、竹本喜太夫様ご使用の竹本床本202冊を、竹本協会（竹本谷太夫様）を介して、ご寄贈いただきました。

貴重な資料として大切に保存させていただきます。ありがとうございました。

資料をご寄贈くださった方々（敬称略・順不同／2013年6月～7月）

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、衛星劇場、国立劇場、三越劇場、ル テアトル銀座、劇団青年座、岩波ホール、株式会社日本舞踊社、ロングランプランニング株式会社、日本映画テレビ技術協会、関西・歌舞伎を愛する会、文学座、演劇出版社、明治座、劇団昴、田中篤子、国立歴史民俗博物館、キネマ旬報社、一般社団法人日本民間放送連盟、博多座、株式会社カモミール社テアトロ編集部、伝統文化新聞、フィルムセンター、劇団民藝、東京大学出版会、国文学研究資料館、丸善出版株式会社、テアトル・エコー、公益社団法人日本照明家協会、吉田登、株式会社東急文化村、松井正昭、京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター、圓城寺幸治、早稲田大学演劇映像学会、(株)近代映画社、成美堂出版、音楽座ミュージカル、佐相勉、公益財団法人 江戸糸あやつり人形 結城座、新鷹会、おもだか会、銀座百店会、邦楽の友社、シアタークリエ、パルコ劇場、講談社、キョードー東京、日本劇作家協会、劇団四季、シナリオ・センター、OSK日本歌劇団、劇団銅鑼、一般社団法人日本映画製作者連盟、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、舞踊芸術社、無声映画鑑賞会、前進座、関西常磐津教会、俳優座劇場、流山児★事務所、サードステージ、常磐津節保存会、岩波書店、岡部企画、国際舞台芸術交流センター、株式会社オフィスタカヤ、日本映画テレビプロデューサー協会、帝国劇場、大佛次郎記念館、劇団若獅子、公益財団法人ユニジャパン東京国際映画祭事務局、こまつ座、東京都江戸東京博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場、日本芸能実演家団体協議会 実演家著作隣接権センター、日本近代文学館、日本アカデミー賞協会、人形劇団プーク、安田文吉 安田徳子、株式会社ヴィレッジ、新宿梁山泊、一般社団法人長唄協会、日本演劇興行協会、公益財団法人大宅壮一文庫、サンスター株式会社、劇団扉座、新歌舞伎座、安孫子正、社団法人日本演劇協会、映画論叢、博物館明治村、華のん企画

どうもありがとうございました

第36回松竹大谷図書館所蔵資料展示

映画における『富士山』展

展示期間:2013年8月19日~2013年9月25日/於 閲覧室

平成25年6月22日にカンボジア・プノンペンで開催された第37回ユネスコ世界遺産委員会にて、富士山の世界遺産登録が決定しました。その盛り上がりにあわせて、現在、富士山に関連した様々な企画や催しをいたるところで目にします。

そこで今回の展示では、当館の所蔵資料より劇中に富士山が登場し、およびプログラムやプレスシートなどに富士山が載っている資料の映画作品を主に取り上げて展示しました。

日本の象徴である富士山は、その雄大な山体や四季を通じて変化する風景の豊かさにより、古くから芸術や文化の源となってきました。映画もその例に漏れず、恋愛映画、文学的作品、時代劇など様々なジャンルの作品で多く取り上げられています。

日本でおなじみの清水次郎長、弥次喜多道中の話は何度も映画化されている題材ですが、それぞれ主だった舞台が富士周辺、東海道であるため、富士山を背景に使用される映像が多くみられます。新藤兼人監督が葛飾北斎を取り上げた映画『北斎漫画』では有名な「富嶽三十六景」のエピソードが描かれています。石原裕次郎主演映画『富士山頂』のように、富士山及び富士山に関わる事業を題材として取り上げた作品もあり、富士山自体が作品として成立するドラマティックな存在であるといえます。また活火山のためかパニック映画で噴火する富士山が出てくる傾向も強いようです。『ドラゴンヘッド』のプログラムには表紙に噴火する富士山が背景として載っており、終末世界を如実に表しています。

今回は展示スペースの都合のため、外国映画は取り上げていませんが、やはり日本の象徴といえる存在であるためか、日本を舞台とした外国映画に富士山が登場する確率が高いようです。ジャッキー・チェンが日本でアクションを繰り広げる『大福星』は山梨県の富士急ハイランドで撮影しており、富士山をバックに躍動するジャッキー・チェンを見ることができます。『バイオハザードV リトリビューション』では、主人公アリスが渋谷でアンデッドたちと戦いますが、プログラムの表紙は荒廃した東京の街を前景とし、奥に富士山が配置されたデザインとなっており、舞台が日本であることを伝えるのに一役買っているともいえます。

次回は、芝居における富士山を題材に展示を行います。



展示資料一覧

●『伊豆の踊子』プレスシート

1954年松竹/野村芳太郎(監督)/伏見晃(脚本)/川端康成(原作)/主な出演:美空ひばり、石浜朗

当時17歳の美空ひばりがヒロインの踊子を演じている。

●『続次郎長富士』プレスシート

1960年大映/森一生(監督)/八尋不二(脚本)/主な出演:長谷川一夫、市川雷蔵、勝新太郎

前年にヒットした『次郎長富士』の続編。

●『富士に立つ若武者』

「別冊近代映画」1961年5月上旬号グラビア複製

1961年東映/沢島忠(監督)/鷹沢和善(脚本)/主な出演:大川橋蔵、月形竜之介、三田佳子

大川橋蔵が若き日の源頼朝を演じた映画。

●『富士山頂』プログラム

1970年日活/村野鉄太郎(監督)/国弘威雄(脚本)/新田次郎(原作)/主な出演:石原裕次郎、山崎努

富士山気象レーダーが昭和39年10月に完成するまでの一大事業を描いたセミドキュメンタリータッチの映画。

●『北斎漫画』プログラム

1981年富士映画/新藤兼人(監督+脚本)/矢代静一(原作)/主な出演:緒方拳、西田敏行、田中裕子

名匠新藤兼人監督が葛飾北斎を取り上げた映画。

●『ドラゴンヘッド』プログラム

2003年東宝/飯田譲治(監督+脚本)/望月峯太郎(原作)/NAKA 雅 MURA、斉藤ひろし(脚本)/主な出演:妻夫木聡、SAYAKA
原因不明の新幹線事故に遭遇し、生き残った高校生の男女ふたりのサバイバルが描かれる。

●『樹の海』プログラム

2004年ビターズエンド/瀧本智行(監督+脚本)/青島武(脚本)/主な出演:萩原聖人、井川遥、池内博之、津田寛治
青木ヶ原樹海を舞台に“生と死”をテーマに4つのエピソードが交錯する群像劇。

●『真夜中の弥次さん喜多さん』プログラム

2005年アスミック・エース/宮藤官九郎(監督+脚本)/しりあがり寿(原作)/主な出演:長瀬智也、二代目中村七之助
お伊勢参りへ旅立った二人の男が繰り広げる珍道中を独特のセンスとスタイルでユーモラスに描いた作品。

●『次郎長三国志』プログラム

2008年角川映画/マキノ雅彦(監督)/大森寿美男(脚本)/村上元三(原作)/主な出演:中井貴一、鈴木京香
「マキノ雅彦」の名で監督としても活躍する津川雅彦が、叔父のマキノ雅弘監督の人気シリーズ「次郎長三国志」をリメイクした映画。

★参考展示★

●「松竹社報」2000年3月・4月号「松竹映画オープニングマークの変遷」記事

松竹は、映画の冒頭に富士山をオープニングマークとして使用している。

昭和11年の『一人息子』(小津安二郎監督)で既に富士山をデザインとしたオープニングマークが使用されており、その歴史が古いことがわかる。

■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2013（平成25）年8月にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社衛星劇場

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

公益財団法人 昭和池田記念財団

どうもありがとうございます

■ 編集後記 ■

今年も8月に資料整理のため、二週間休館いたしました。資料の書架移動や、大量寄贈された台本やプログラムなどの整理など、このときにしかできない作業を行いました。

今回の休館で整理した資料をひとつご紹介いたします。昭和7年より昭和25年頃までの松竹映画のシナリオが収録されている「松竹映画台本集」（61巻）です。この台本集は、おそらく開館のときから所蔵していると思われる資料ですが、書架に並んでいるのみで、整理はされていませんでした。今回、パソコンにデータ入力し、作品名や監督、脚本家の名前で検索できるように整理しました。五所平之助、島津保次郎、佐々木康、野村芳亭、大曾根辰夫、清水宏、吉村公三郎、そして小津安二郎や木下恵介など、松竹映画を支えた名立たる監督たちの、およそ四百近い作品を検索し、読むことができるようになりました。当館にお立ち寄りの際は、是非閲覧室のパソコンで、お好きな監督や作品名で検索してみてください。

（あ）



● 利用案内 ●

開館時間

平日午前10時～午後5時

休館日

土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、5月1日、11月22日、年末年始、春期夏期特別整理期間

※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内およびWebサイトに掲示します。

入館料 無料
館内閲覧のみ

● 交通案内 ●

東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分